

[ヘパラン硫酸]-グルコサミン 3-硫酸転移酵素 1

Cat. No. EXWM-3382

Lot. No. (See product label)

はじめに

説明

この酵素は、抗トロンビン結合部位の前体において最も選択的であることから、他の[ヘパラン硫酸]-グルコサミン3-硫酸転移酵素[EC 2.8.2.29 ([ヘパラン硫酸]-グルコサミン3-硫酸転移酵素2) およびEC 2.8.2.30 ([ヘパラン硫酸]-グルコサミン3-硫酸転移酵素3)]とは異なります。最小受容体配列は次の通りです: $\rightarrow \text{GlcNAc6S} \rightarrow \text{GlcA} \rightarrow \text{GlcN2S}^{*+/-6\text{S}} \rightarrow \text{IdoA2S} \rightarrow \text{GlcN2S} \rightarrow$ 、アスタリスクはターゲットを示し（記号は2-Carb-38と同様）、+/-は置換基の有無を意味し、>は主要な構造と副次的な構造を区別します。したがって、 $\text{Glc(N2S} > \text{NAc)}$ は、Nが主に硫酸基を持ち、時折アセチル基を持つグルコサミンの残基を意味します。ヘパラン硫酸内の他の前体配列も修飾できますが、この作用は機能的な抗トロンビン結合部位を生成しません。これらの前体はコンセンサス配列の種類です: $\rightarrow \text{Glc(N2S} > \text{NAc)}^{+/-6\text{S}} \rightarrow \text{GlcA} \rightarrow \text{GlcN2S}^{*+/-6\text{S}} \rightarrow \text{GlcA} > \text{IdoA}^{+/-2\text{S}} \rightarrow \text{Glc(N2S/NAc)}^{+/-6\text{S}} \rightarrow$ 。ヘパラン硫酸基質がGlcA残基の2-O-硫酸化を欠いている場合、酵素の特異性はIdoAの前にある選択されたグルコサミン残基およびGlcAを修飾するように拡張されます。

別名

ヘパリン-グルコサミン 3-O-硫酸転移酵素; 3'-ホスホアデニル酸-硫酸:ヘパリン-グルコサミン 3-O-硫酸転移酵素; グルコサミニル 3-O-硫酸転移酵素; ヘパラン硫酸 D-グルコサミニル 3-O-硫酸転移酵素; アイソフォーム/アイソザイム 1 (3-OST-1, HS3ST1)

製品情報

形態	液体または凍結乾燥粉末
EC番号	EC 2.8.2.23
CAS登録番号	183257-54-7
反応	$3'\text{-ホスホアデニル硫酸} + [\text{ヘパラン硫酸}]\text{-グルコサミン} = \text{アデノシン } 3',5'\text{-ビスリン酸} + [\text{ヘパラン硫酸}]\text{-グルコサミン } 3\text{-硫酸}$
備考	このアイテムはカスタム生産が必要で、リードタイムは5~9週間です。ご要望に応じてカスタム生産が可能です。

保管・発送情報

保存方法

短期間は +4 °C で保管してください。長期間保管する場合は -20 °C~-80 °C で保管してください。